様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ２７ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０３５８７

研究課題名（和文）『国富論』における政府の役割と『道徳感情論』の正義論との関連性に関する研究

研究課題名（英文）The relation between the role of government in WN and the justice in TMS

研究代表者
高　哲男（Taka, Tetsuo）

九州大学・経済学研究院・特任研究者

研究者番号：９０１０６７９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：以下の二点で、伝統的なスミス解釈を批判し、新しい解釈を提示した。
功利主義批判：人間の社会は多様な価値観、道徳感を抱くさまざまな人間から成立しており、公共の利益は、たんなる個人の自己利益の数学的集計にはならない。体系重視の人間は、人間の幸福よりも機械装置がもつ効用や美しさを、目的よりも手段を重視する過ちを犯す。政府や国家の役割：自然的正義が確立すれば、競争が保たれている限り自然的自由の体制は持続するが、それはあくまでも商人の社会である。人間の可能性と能力をさらに展開させるには、非商業的な人間資質や文化の発展を担う人間教育、芸術や科学の振興等の分野で政府の果たすべき役割がますます大きくなる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
アダム・スミスの経済思想は、従来ますます自由競争至上主義の源泉、あるいは、意図せざる結果の理論的源泉と理解されることが多くなった。本研究は、そのような理解は極めて恣意的であること、結果的に、スミス自身の思想や経済学が本来持っていた歴史的な意義を、完全に見失うものであることを、『道徳感情論』と『国富論』に即して解明、指摘した。社会全体に対して、効率性の重視だけでなく、人間が本来持っている多様な能力の発揮のために政府しかできないこと、これに、自由主義の元祖スミスが早くから注意を喚起していたことを、広く知ってもらえるように少し貢献できたと信じている。

研究成果の概要（英文）：My research proposed two new interpretations on Smith’s thoughts. As to his attack on utilitarianism, the essence was against its misunderstanding of public interest, for it misunderstood the means more than the end of human happiness. Public interest was more than the simple aggregate of individual interests. Natural order of nature should persist under the established natural rights and free competition, though it should remain a simple society of merchants. For the development of noncommercial human powers and capability, governmental roll must increase forever in the fields of education, arts and sciences.

研究分野：経済思想史　社会思想史

キーワード：アダム・スミス　共感　道徳　正義　自然的自由　政府の役割　教育　娯楽

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

アダム・スミスの『道徳感情論』と『国富論』との間に断絶があるといういわゆる「アダム・スミス問題」の指摘は、倫理学と経済学のあいだを架橋するむつかしさの指摘であったかぎりでは、それなりに意味があったが、グラスゴー大学時代の『道徳哲学』の講義内容が明確になり、『法学講義』A ノートの発見と復刻以降、学説史的にはまったく根拠を失った。しかし、具体的に二つの著書がどのように論理的に結びつくのかという問題そのものの追究は、あまり進んでいない。1970 年代末からいわゆるネオ・リベラリズム的な『国富論』解釈、つまり競争を重視する市場万能主義的なスミス解釈と、『道徳感情論』のなかに現代社会批判のための手がかり、つまり理神論的な調和の思想や自然法的伝統から見た人間解放のための視座を見いだそうとする思想史・哲学研究とに、むしろ両極分解してきたうえ、スミス研究そのものが、圧倒的に後者つまり思想と哲学の分野に集中するようになってしまった。

もちろん、これはこれで大いに意味のあることなのだが、この方法では、これ以上大きな成果を期待することはできないと思われたのである。

２．研究の目的

本研究の目的は、アダム・スミスが「残された最後の課題」であると『道徳感情論』第六版で回述した「法学の理論」の基礎である「正義」論を、『道徳感情論』第六版の厳密な再構成にもとづいて、一般的規則としての「自然的正義」はどのようなもので、どのように出来上がるのかを明らかにしたうえで、いったい国家＝政府はそのプロセスでいかなる役割を担いうるか、あるいは、担うように理解されていたかを解明し、それが『国富論』第五篇の長大な政府・国家の役割についての分析とどのように結び付けられているか、これを解明することである。結果的に、自然権にもとづく「自然法学」体系の伝統的な枠組みのなかで、自由と財産権の維持を「正義」の実現であると捉え続けた F.ハチスンや D.ヒュームと違って、スミスがより積極的な政府の役割、つまり、国防や司法にとどまらず、公共事業や教育制度改革と整備、国教会批判と宗教の自由化、科学的知識の普及、健全な娯楽の育成、株式会社法のような法律の整備や国債発行の管理方式などについて、新しい国家の役割に関する様々な提案を行った理由も、明確になってくるはずである。

３．研究の方法

そもそもの研究方法は、（１）一般規則としての「正義」の観念がどのように成立するか、どのように変化するかという問題を、『道徳感情論』に即して厳密に再構成すること。および『国富論』では、「正義」の問題は、政府の役割との関係でどのように議論されているかを原典に即して厳密に再構成すること。（２）『国富論』第五篇の公共事業や制度に関する分析で展開された教育改革論、株式会社の立法をめぐる「プライベート法」と「一般法」との関連付け方の特徴、成人教育の一環としての演劇や音楽の楽しみの奨励、科学的知識の普及などに関するスミスの主張を、原典に即して理解するだけでなく、当時それぞれの分野でどの程度まで政府の活動がなされていたかを解明しながら、再構成すること。（３）スミスがどの程度まで、あるいは、どのような意味で「自然法学者」であったのか、あるいはなかったのか、この問題に資料に即した決着をつけるために、『道徳感情論』と『国富論』におけるコモンロー批判と決議論批判のロジックを再構成したうえで、法制史と宗教史に関する研究を手掛かりにして解明すること。この三点を目標に、主として、イギリスの図書館での調査や英米の法制史研究者との交流を通じて研究を進め、学会報告や論文執筆をしながら、本にまとめる作業を進めるというものであった。

４．研究成果

結果的には、目標の達成は半分程度にとどまり、明確な結論を引き出せるような論文も、著書も完成させることができなかったが、もちろん研究の進展とともに明確になってきた事柄・成果は、少なくない。

１．人間社会はチェス盤ではない。チェスの駒とは異なって、人間は自分の意志でそれぞれ異なった動き方をするというしばしば引用されてきたスミスの主張は、決して単なる「自由放任の必然性」の主張・指摘ではない。人間行動は、多様な動機にもとづいて、しかも様々な制度のな

かで作り上げられた価値観や判断に基づいて決定されるのであり、社会そのものが複雑な制度構造をもっているという指摘であって、決して「自由に放任されれば上手くいく」というような主張ではない。多様な価値観、多様な道徳観を抱くさまざまな人間と社会集団によって社会は構成されているのであって、「公共の利益」は、たんなる自己利益の集合ではない。この観点から、スミスは「体系重視の人間」、つまり自分の理想に従って画一的で均一な社会の統制的管理をめざす人間とその思想を批判し続けたのである。

２．体系重視の精神とは、人々の幸福を増進するという目的よりも、「手段を重視し、一定の美しい秩序だった体系」を、機械装置がもつ効用や美しさだけで判断するような精神態度のことである。そのような精神態度は、共感の上に成り立つ「自制、自己抑制、適合性」といった感覚とは無縁であり、社会体制を個人の「好み」に従って指導し、押し付ける類のものである。そのような精神は、「一部の国民がさらされかねない不便や難儀に対する真の一体感にもとづく公共心」と「たやすく混ざり合いやすい」ため、党派的な政治指導者が「もっともらしい計画」を提供する基礎になる。

３．自由、身体と財産の安全という「自然的正義」が満たされていれば、「自然的自由の体系」はおのずと発展し続ける。つまり、生産と消費の体系がおのずと拡大しつづけ、すべての国民の生活が豊かになるのであって、この体系にとって最も必要なことは、「自然的正義」とその実現を妨げないようにする「自由競争」である。だが、「自然的自由の体系」はあくまでも物質的な生活・富裕の進展を実現する体系であって、商人のあいだと同様に、「有用性という感覚にもとづいて存続可能な体制」を意味するにすぎないという事実が、従来の研究ではまったく見逃されてきた。社会構成員の間の「愛や好意がなくても」、「効用と効率」の観点だけを基礎にして市場経済体制は存続しうるという思想、これがスミスの経済学であると解釈されてきたのである。だが、そのような理解では、『国富論』の第五篇にスミスが「統治者または国家の収入について」という、いわゆる財政学にぞくすると評価されてきた長大な考察を加えた理由は、理解できなくなる。従来それは、自然的自由の体系を助成し、補足するような「国家の役割と課税の原理」の説明であると理解されてきたが、それは半分しか正しくない。第五篇でスミスが分析・考察したことは、国防や司法、株式会社法の制定などの立法、教育制度や教養娯楽推進のための公共事業や制度がもつ独自の追加的な意義であり、その費用を賄うための課税制度の検討なのである。これは、もちろん「自然的自由」の体制を阻害するものであってはならないが、それ以上に、国民の生活を商人の社会が実現する世界を超えて拡大・充実させること、そのために何をなすべきかという考察であった。第五篇はスミスの「財政学」ではなく、「制度の経済学」が展開されている箇所である。

４．当初の研究計画に組み込んでおいたスミスの「コモンロー」と「決議論」との類似性に関する指摘がもつ意味をめぐって、イングランド法制史およびイングランド国教会の慣行に関する研究史を確認するという作業は、プライベート法関係の資料を入手したほかには、目立った成果を上げられなかった。そもそも短期間でサーヴェイ可能な課題ではなかったのが一番の原因だが、欧米の専門的研究者が少ないという側面もあった。たとえば、株式会社法などの制度的・法律的側面については、現代の研究者にとって、スミスの『国富論』の議論は、むしろ歴史を知るための「原資料」と扱われているほどである。教育史については、かなりの研究成果があることが判明した。スミスの音楽論については、エジンバラ音楽協会の一員として毎週室内楽コンサートに出席していたことなど、現地調査をつうじて新発見があったのだが、スミス自身にとっての課題であった、音楽を聴いて、なぜいろいろな情動が湧いてくるのかという、さらに大きな問題と絡めて考察すべき課題であることが判明したため、現在もまだ論文に仕上げるほど煮詰められていない。いずれ、完成させたい。

５．いくつか学会発表もしたが、スミス自身「共感の理論が粗雑に理解されている」と『道徳感情論』で言及しているように、スミスの共感の理論はかなり精密に組み立てられていることが判明し、今回、第二章の「功績と欠点」で展開された「間接的共感」の概念に注目し、改めて全体の論理展開を再構築しつつある。ほぼ完成に近づいているし、学会発表するために執筆したものもあるが、コロナウィルス蔓延に対する対応のため、すべて中止・延期を余儀なくされた。

６．『国富論』の翻訳を上下二冊（2020 年 4 月、5 月）刊行することができたが、これは、本研究遂行の前提・一環であり、訳者解説で研究成果の一端を紹介しておいた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Tetsuo Taka	４．巻 22
２．論文標題 On the Meaning of the Layered and Evolutionary Structure of“Utility” in Adam Smith’s The Theory of Moral Sentiments.	５．発行年 2018年
３．雑誌名 九州産業大学『エコノミクス』	６．最初と最後の頁 25-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高　哲男	４．巻 42
２．論文標題 道徳感情論』における「共感」の理論構造――第一部と第二部を中心に	５．発行年 2019年
３．雑誌名 イギリス哲学研究	６．最初と最後の頁 155-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 高　哲男
２．発表標題 31『道徳感情論』第二部がもつ独自の意義について――功績と欠点という感覚：心的傾向とは何か
３．学会等名 経済学史学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 高　哲男
２．発表標題 32『道徳感情論』における「共感」の理論構造――第一部と第二部を中心に
３．学会等名 日本イギリス哲学会　関東部会
４．発表年 2018年

１．発表者名 高　哲男
２．発表標題 29アダム・スミスが進化論的経済学者であった理由について
３．学会等名 進化経済学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 高　哲男
２．発表標題 29アダム・スミスの思想体系と方法――『アダム・スミス――競争と共感、そして自由な社会へ』をまとめながら気づいたことを中心に――
３．学会等名 経済学史学会西南部会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計3件

１．著者名 高　哲男	４．発行年 2017年
２．出版社 講談社　選書メチエ	５．総ページ数 282
３．書名 アダム・スミス――競争と共感、そして自由な社会へ	

１．著者名 アダム・スミス、高 哲男	４．発行年 2020年
２．出版社 講談社	５．総ページ数 736
３．書名 国富論（上）	

１．著者名 アダム・スミス、高 哲男	４．発行年 2020年
２．出版社 講談社	５．総ページ数 704
３．書名 国富論（下）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考